

北区
こぼれ話
第146回

だいにちによらい けしん
北区に眠る「大日如来の化身」
ぜんとくじ たけによらい
～善徳寺のお竹如来～



現在北区に、大日如来の化身といわれた女性のお墓があるのをご存知でしょうか。

江戸大伝馬町（現在の中央区）の佐久間家にお竹という奉公人がいました。彼女は自分の食べ物を貧しい人に分け与えたり、悩んでいる人たちの相談にのったりと、とても人に優しくして信心深い人物でした。

あるとき、武蔵国の修行僧が湯殿山（現在の山形県鶴岡市、出羽三山の一つ）に籠り仏の姿をひと目みたいと強く念じました。すると、仏が夢に現れて「私の姿を見たいのであれば江戸大伝馬町佐久間家のお竹を訪ねなさい」と告げました。僧がさっそく佐久間家へ行きお竹に会うと、彼女の体が光り輝き、後光がさしたといいます。その後、佐久間家では、お竹のために庵室を建て、亡くなると等身大の仏像をつくって供養し、仏像は羽黒山（出羽三山の一つ）に納められました。



お竹如来（赤羽西 6-15-21 善徳寺境内）

この逸話自体は『江戸名所図会』でも紹介されるなど広く知られた話で、嘉永2年（1849）には江戸での出開帳（※寺院の本尊などを他所で公開すること）を契機にお竹如来は流行神として一大ブームを巻き起こします。

さて、佐久間家断絶後、お竹如来の信仰は親戚である馬込家が引き継ぎます。そして、この馬込家の菩提寺が善徳寺です。善徳寺は火災の影響で日本橋馬喰町（現在の中央区）、浅草松葉町（現在の台東区）など転々としませんが、関東大震災後の昭和2年（1927）に赤羽西 6 丁目へ移転してくることになります。その際にお竹さんの墓もこちらに引っ越してきたのでしょうか。

北区の歴史に興味・関心のある方は、関東大震災が地域の歴史の大きな画期となっていることをご存知かと思います。多くの人々が甚大な被害が生じた東京中心部を離れ郊外へと移転したことで北区でも人口が急増し、以後、工業・商業も含め一大発展を遂げることになります。実はこのときに市中で罹災した多くの寺院も郊外へと移転してきました。善徳寺もそうした郊外移転寺院の一寺なのです。

大日如来の化身とされるお竹さん自身はあまり北区の歴史と繋がりが無いのですが、何故、彼女の墓が北区にあるのかといえ、実は北区という地域の歴史と深い関係があるのです。

【地域資料専門員 保垣孝幸】

🍁 今月の展示★「北区の部屋」が集めた戦争のかけらたち Part2 🍁

■ 展示期間：9月25日(土)～10月27日(水)

■ 展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

8月、北区平和祈念週間の平和展へ「北区の部屋」が出品した『「北区の部屋」が集めた戦争のかけらたち』は、地元の資料で構成したこともあり、ご覧になった図書館利用者の方々に大変好評でした。また、平和展の開催期間が5日間と短いことを惜しむ声もあったため、「北区の部屋」にて前後編で再展示することにしました。今回はその第二弾です。



「北区」が登場する本のリスト 更新しました！



『「北区」が登場する本のリスト』
書誌番号：3-0002170681

■ 北区立図書館では、話の舞台や主人公の出身地が北区といったさまざまな“北区”に関する記述のある本を『「北区」が登場する本のリスト』にまとめています。今年度も10月1日付で最新データへ更新しました。これらの本には背表紙に【さくらマーク】が貼ってありますので、興味を持たれたらぜひチェックしてみてください。

■ また、「北区が登場する本」の情報は随時募集しています。“北区”の記述がある本を発見しましたら、各図書館のカウンター等に置かれている『北区が載っている本を教えてください』用紙に本のタイトル、記載頁・内容等の詳細を記入し、図書館スタッフへお渡しください。皆さまからの情報、お待ちしております！！

■ リストは、ホームページでもご覧いただけます。

「東京文化財ウィーク 2021」 今年も開催します！！

■ 東京都教育委員会では、毎年11月3日(文化の日)を中心に、都内全域の文化財の公開やさまざまな関連イベントを実施する『東京文化財ウィーク』を開催しています。

■ 今回、お配りできるガイドブックはありませんので、詳しくは東京都生涯学習情報ホームページの東京文化財ウィーク情報・文化財情報データベースをご確認ください。

■ 『東京文化財ウィーク 2021』開催期間

◆ 特別公開事業

10月30日(土)～11月7日(日)

◆ 通年公開・企画事業

10月1日(金)～11月30日(火)

■ 問合せ先：東京都庁

◆ 地域教育支援部管理課文化財保護担当

電話：03-5320-6862

<https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/week.html>

[tokyo.lg.jp/sesaku/week.html](https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/week.html)

🍁 渋沢栄一の副読本(小・中学生用)が完成しました 🍁



※左：中学生用・右：小学生用
書誌番号 左 3-0003224464
右 3-0003224465

北区教育委員会では、渋沢栄一に関する副読本「LOVE LIVE LEAD ～北区を愛し、北区に住み、世界をリードした渋沢栄一翁～(小学校第3学年～第6学年版、中学校第1学年～第3学年版)」を作成しました。企業の設立や社会事業に大きく寄与した功績などを学ぶための教材として、北区立小・中学校で活用していきます。

副読本は学校をとおして対象学年の児童・生徒へ配布します。販売はいたしません。中央・滝野川・赤羽図書館の3拠点館の他、滝野川分庁舎内「北区教科書センター」で一般の方も閲覧することができます。ぜひ、ご覧ください。



北区の部屋だより 第147号



2021年11月



刊行物登録番号2-2-107

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033 北区十条台1-2-5 ☎03-5993-1125 令和3年11月発行

北区 こぼれ話 第147回

被災地や事故現場の 絵はがきをどう見るか

絵はがきと言えば、観光地などで売られているものを思い浮かべる方が多いと思います。様々な観光施設で、美しい風景や歴史的建造物の絵はがきが売られています。博物館や美術館でも、展示品を素材にした絵はがきがミュージアムショップで売られています。アイドルやアニメ、鉄道など趣味の絵はがきも、コレクターズアイテムになっています。

ところで、もし自分に送られてきた絵はがきに、山積みの焼死体や、瓦礫が散乱した街の写真が掲載されていたらどう思うでしょうか。おそらく、絶句し、なぜこのように凄惨な写真を私に見せるのかと、怪訝な表情を浮かべることでしょう。

しかし、戦前の日本では、災害現場の絵はがきが、大量に発行されていました。歴史が好きな方の中には、関東大震災の絵はがきを見たことがある方がいらっしゃると思います。日本近代史関係のビジュアルな本の多くに、関東大震災の絵はがきが転載されています。北区のご家庭の押し入れや倉庫から、震災や水害の被災地の絵はがきが出てくるともあります。

それらの絵はがきは、新聞社が発行したもの、みやげとして買い求められたもの、行商人が販売したものなど様々です。購入者の多くは、はがき本来の用途には使用せず、今で言えば、写真週刊誌や報道写真集と同様の見られ方をしたものと考えられます。



実は、大災害ではなくても、事件や事故の現場写真は、絵はがきの素材になりました。上の絵はがきをご覧ください。爆発事故現場の絵はがきです。カラー写真ではなく、モノクロ写真に着色をしたものです。キャプションには「八月三日午後九時五十五分府下岩淵町なる硝火綿工場より突然大爆発をしたり原因は空気の乾燥による(No.7)」とあります。多くの軍事施設が集中していた赤羽周辺には、軍需工場が少なくなかったのです。その一つが、爆発事故を起こしたのでした。キャプションに「No.7」とあるのでセット販売された中の一枚かもしれません。発行は「東京市浅草区三間町時事画報社」とあります。東京で発生した事件事故を扱う絵はがきを制作していた会社だと思われます。

【地域資料専門員 黒川徳男】



北区の部屋・今月の展示

旧道を歩く～神谷地域～

- ・ 展示期間：10月29日（金）～11月24日（水）
- ・ 展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

江戸時代の神谷村の村絵図を参考に古い道を現在の地図に落とし込み、かつての村道を歩いてみました。



旧道沿いにある庚申塔
(神谷3-34)



公開歴史講座

「中央公園文化センターの謎にせまる ―兵器工場の事務所から米軍野戦病院まで―

白亜の建物、中央公園文化センターは、陸軍造兵廠火工廠の本部事務所として建設され、戦後は米軍に接收されました。その歴史の謎に迫ります。

- ・ 講師：黒川徳男^{くろかわのりお}地域資料専門員
 - ・ 日時：12月4日（土）
14時～16時
 - ・ 場所：中央図書館3階ホール
 - ・ 定員：20名（抽選）
 - ・ 対象：区内在住・在勤・在学
中学生以上の方
 - ・ 締切：11月16日（火）必着
- 【申込方法】往復はがきの往信用裏面に講座名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を、返信用表面に、申込者の住所、氏名を記入のうえ、下記まで。
※視覚・聴覚障害のある方は、電話・FAXにてお申込み可。
※手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。
〒114-0033 北区十条台1-2-5
北区立中央図書館・図書係
TEL：03-5993-1125 / FAX：03-5993-1044
※会場はヒアリンググループ補助システムが設置されています。

北区図書館活動区民の会 企画展示

渋沢栄一が王子にきた頃 ～「武陽王子飛鳥山真景」を眺める～



渋沢栄一が来た頃の王子は、江戸の文化を引き継ぎ、明治の産業化の先鞭が交錯する地でした。明治21年（1888）に描かれた、日本画「武陽王子飛鳥山真景」をもとに、渋沢邸・飛鳥山・石神井川・王子駅・製紙工場などについて、当時の写真・絵図・地図を使いご紹介します。

展示場所：北区立中央図書館2階エントランス

期間：令和3年11月26日（金）～12月28日（火）

主催：北区立中央図書館 企画制作：北区図書館活動区民の会 地域資料部



ドナルド・キーンと渋沢栄一「続 百代の过客」で読む航西日記

1867年のパリ万博派遣に随行した渋沢栄一が著した『航西日記』。キーン氏はこの紀行文を『続 百代の过客』の中で、独自の視点から分かりやすく解説しています。キーン氏の著作を通して、当時の様子や若き日の渋沢栄一像に迫ってみませんか。

展示場所：北区立中央図書館1階エントランス 展示期間：令和3年11月2日（火）～12月28日（火）

主催：北区立中央図書館 企画制作：北区図書館活動区民の会 ドナルド・キーン研究会

！！イベント情報！！<ドナルド・キーンを読む会> 11月23日（火祝）13:30～15:00

『航西日記』に登場する人々やその時代的背景について、黒川徳男地域資料専門員のお話と、キーン研究会による『続 百代の过客』で読む『航西日記』読書会を開催します。

会場：北区立中央図書館3階ホール 定員：20名（当日直接会場へ）



北区の部屋だよ!

2021年12月 第148号

良いお年を



刊行物登録番号 2-2-107

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 Tel.03-5993-1125 令和3年12月発行

北区 こぼれ話 第148回

王子神社の熊手市



令和3年も残すところ、あとひと月。年の瀬を感じさせる風物詩はたくさんありますが、北区でいえば王子神社の熊手市もその一つでしょうか。

熊手市といえば、11月の酉とりの日に行われる「酉とりの市」が有名です。「酉とりの市」は、江戸時代以来続く開運招福や商売繁盛を願う祭礼

で、足立郡花又村鷲明神社はなまたむらわしみょうじんしゃ（現在の足立区花畑、大鷲神社おおわしじんしゃ）が発祥とされます。

当初は農民たちの収穫祭だったといいますが、江戸時代にはすでに「都鄙参詣とひさんけいのもの貴賤群集きせんぐんしゅうす」(『大日本地誌大系新編武蔵風土記稿第七巻』※1)とあるように、大勢の参詣客で賑わっていました。そして、境内には農具を売る市がたち、江戸市中の参詣者が増えるにしたがって実用的な熊手から縁起物の装飾熊手へと変化していったといえます。現在では、台東区千束の鷲神社せんぞく おおとりじんしゃや新宿区の花園神社はなぞのじんしゃなどの「酉とりの市」が広く知られており、熊手が売れた時に行われる賑やかな手締めの様子をTVニュースの映像で見たという人も多いかと思えます。

一方、王子神社で行われる熊手市は、毎年

12月6日と日が決まっており、酉とりの日とは限りません。昭和8年(1933)の『高木助一郎日記』12月6日の記述には「夜、王子神社に於おいて熊手市あり」と、この年にはすでに王子神社境内で熊手市が開催されていたことを記しており、同じく昭和10年の日記では「境内一杯の熊手屋に賑かなりし」と記述しています。

12月に行われることから都内で最も遅く開催される「酉とりの市」とも紹介され、『新修北区史』(※2)では「江戸は十一月、近郊農村は一月おくれの十二月というのがきまりのよう」だと推察しています。ところが、『北区の歳事記』(※3)によれば「昭和10年ごろから酉とりの日に関係なく熊手業者によってはじめられた」といい、祭礼としての「酉とりの市」との関係は定かではありません。

それでも、今から90年近く前に始まり、現在でも

続くこの熊手市は、すっかり北区の年の瀬を告げる風物詩になっていることに間違いは無いでしょう。みなさんはどのような景観に年の瀬を感じますか。



昭和39年(1964)12月日王子神社熊手市
(手川文夫氏撮影)

【地域資料専門員 保垣孝幸】



※1 雄山閣、1996年、P167 ※2 東京都北区役所、1971年、P1676
※3 北区郷土資料館シリーズ9、北区教育委員会、1988年、P21



今月の展示

秘蔵写真公開！ 見たことがない北王子駅と北王子線 一廃止のあとさき

- 展示期間：11月26日（金）～12月28日（火）
- 展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

かつて、JR貨物の田端信号場駅から北王子駅（日本製紙物流）まで「北王子線」という名の線路がありました。2014年廃止直前の北王子駅構内、廃止直後の王子駅付近の高架橋線路上から見た風景、そして線路が撤去される工事。すべて、関係者などのご協力により合法的に撮影された写真です。今回の展示では「見たことがない」北王子線の写真をお見せします。ぜひご覧ください。



小学生向け ワークショップ

◇北区図書館活動区民の会・地域資料部 企画・運営◇ 「親子で探検！ 中央図書館☆ナイトツアー」 開催のお知らせ

誰もいなくなった夜の図書館を大冒険。普段は何気なく利用しているこの場所は、実は…。親子で探検し、歴史の核心に迫る！

- 【対象】 区内在住の小学生とその保護者
(6年生優先、未就学児不可、保護者同伴必須)
- 【日時】 令和4年1月9日（日）午後4時45分～7時
- 【場所】 中央図書館（3階ホール集合）
- 【定員】 12組（抽選、小学生1名・保護者1名の2人1組）
- 【申込】 下記の方法で12月15日（水）（必着）まで。



- ①往復はがきの往信用裏面にイベント名、郵便番号、住所、参加者全員の氏名（よみがな必須）、年齢、電話番号を、返信用表面には申込者の住所、氏名を記入し下記まで。
- ② FAX 申込用紙（図書館にあり、または図書館HPからダウンロード）に必要事項記入し下記まで。

【送付先】 〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館図書係 / FAX：03-5993-1044

【問い合わせ】 TEL：03-5993-1125（図書係・地域資料担当）

今月の おすすめ本

渋沢栄一 関連図書のご案内 NHK 大河ドラマ「青天を衝け」な本たち

大河ドラマは今年最終回を迎えます。渋沢翁の亡くなる91歳まで描かれるとのことですので、展開の速さについていけるよう、ガイド誌各種ご用意しました。テレビのお供にぜひご覧ください。

青天を衝け 渋沢栄一とその時代

- ▶NHK 出版
 - ▶書誌番号：3-0003162406
- 幕末・明治の最新研究から、「日本資本主義の父」渋沢と、群雄たちの実像を徹底解説。



渋沢栄一完全ガイド

- ▶晋遊舎
 - ▶書誌番号：3-0003167258
- 日本の“資本主義”を作った男の時代背景・出来事・関係人物・功績が全てまるわかり！渋沢栄一の真実100



青天を衝け 完結編（NHK大河ドラマガイド）

- ▶大森 美香（著）▶NHK 出版
 - ▶書誌番号：3-0003237625
- 吉沢亮・草薙剛グラビア対談や魅力ある出演者の紹介&インタビュー、撮影の舞台裏などを特集。



「東京人」2021年2月増刊号

- ▶都市出版 ▶中央図書館にて販売中！
 - ▶書誌番号：3-0003162997
- 雑誌『東京人』と北区がコラボし、「王子飛鳥山を愛した渋沢栄一」の足跡を取り上げた大河ドラマ館開館記念本。





北区の部屋だより 第149号



2022年1月



刊行物登録番号2-2-107

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL 03-5993-1125 令和4年1月発行

北区
こぼれ話
第149回

イギリスの外交官アーネスト・サトウを がっかりさせた製紙工場

アーネスト・サトウは、イギリスの外交官です。幕末に来日し、通訳として活躍しました。彼は、来日してから日本語を学びましたが、語学の才能に恵まれており、日本語が上手な外国人として、その名を広く知られました。明治になってからもパークス公使らの下で外交官として働き、明治28年（1895）駐日英国公使に昇進しました。

彼には『明治日本旅行案内』（明治14年初版）という著書があります。書名のとおり、旅行ガイドのような本です。その中に王子が出てきます。サトウは、王子の美しさを絶賛しています。

「東京近郊の中でも最も興^{きょうしゅ}趣が多い閑静な場所の一つである。この美しい小さな村は日本橋より5マイル北に位置し、秋に音無川沿いにつなる楓が深紅に染まる頃には行楽客がしばしば足を運ぶところだ。また早春にも近傍^{きんぼう}の飛鳥山の桜が花を咲かせたいそう魅力的になると多くの見物客が訪れる。」

また、飛鳥山からは赤城山・日光連山・筑波山などの風景を眺めることができるとしています。彼が愛したのは王子の自然でした。「王子村は樹木の茂る小さな谷間に絵のようにたたずみ」と、村の様子を絵画に例えています。さらに、扇屋（原文では大木屋）と海老屋を紹介し、王子稲荷神社の境内の様子や周囲の滝についても詳細に説明しています。

しかし、その文末には気になるひと言が添えられています

「近年は飛鳥山の麓^{ふもと}付近に製紙工場が建設され王子の静けさと美しさが著しく損なわれている。」

明治政府は、外国の要人を飛鳥山渋沢邸へ招待するたびに、製紙工場へも案内しました。その最初の賓客がグラント将軍（前アメリカ大



石版画「飛鳥山より王子製紙会社を眺む」
勝山英三郎発行、明治24年

統領）でした。さらに、ハワイ国王は、国家元首として最初に来日し、渋沢邸のほか製紙工場にも立寄りしました。日本政府としては、近代化の証しとして彼らに大工場を見せたかったのです。

一方、アーネスト・サトウは、幕末から日本に滞在し、江戸近郊の風景の美しさを知っていた人物でした。そして、彼が生まれ育った国は、世界で最初に産業革命を達成したイギリスです。工場など見慣れたものだったでしょう。彼が感動したのは自然の中にたたずむ小さな村“王子”なのです。そこに工場が造られたことについて、彼はとても残念に思ったのでした。日本側は外国に誇るべき大工場として、製紙工場へ要人を案内しました。日本の急激な近代化に驚いた外国人もいたでしょう。それとは逆に、アーネスト・サトウと同様の感想を持った人もいたかもしれません。

【地域資料専門員 黒川徳男】

本文中「」内出典『明治日本旅行案内 東京近郊編』（アーネスト・サトウ編著、庄田元男訳、平凡社、2008年）【書誌番号 3-0001809169】



とうきょうじっしや

東京十社

・展示期間:1月5日(水)～1月26日(水)

・展示場所:「北区の部屋」企画展示コーナー



王子神社

昭和 50 年 (1975)、昭和天皇即位 50 年を記念して、かつての准勅祭社^{じゅんちよくさいしや}*をまわる「東京十社巡り」が企画され、その後、定着していきました。今回の展示では王子神社も含まれるこの東京十社について紹介します。 *天皇が使者を派遣する勅祭社に准じる社格で 12 社が選ばれました。



公開歴史講座を開催しました！

「中央公園文化センターの謎にせまる 一兵器工場の事務所から米軍野戦病院まで」



黒川徳男地域資料専門員

12 月 4 日 (土) 中央図書館にて公開歴史講座を開催しました。中央公園文化センターは、日本陸軍造兵^{しょうへい}廠^{しょう}火工^{しょう}廠^{しょう}の本部として建設されましたが、戦後連合国軍に接收され、米軍極東地図局となりました。ベトナム戦争時には米軍野戦病院として利用されたのち、1971 年 (昭和 46) 日本に返還されました。

黒川講師は、たくさんの資料とともに、様々なエピソードをまじえながら、中央公園文化センターの謎にせまりました。下左側の写真は、米国陸軍王子野戦病院時代のもので、フェンスの高さに大きな特徴がありますが、これは負傷兵が脱走するのを防止するため設置されたものです。当時は野戦病院に反対する一般市民が、深夜まで続く討論会を開催し、三派、革マル派の学生約 1300 人や、主婦たち約 700 人によるエプロンデモなどが行われました。実際、民家に侵入し逮捕され

たベトナム負傷兵もいた、という新聞記事も紹介されました。

出席された方たちは、熱心にメモを取りながら、受講されていました。活発な質問もあり、身近な中央公園文化センターへの関心の高さがうかがえる講座となりました。ご記入いただいたアンケートには、「中央公園文化センターがどんな経緯で現在に至ったかよく理解できた」「野戦病院反対の学生運動を目撃していたので、詳しい説明が聞けて良かった」「センター裏の空地が、ヘリコプターの発着場だったとは驚いた」「普段利用している文化センターがどんな活躍をしていたのか聞くことが出来た。歴史は面白い」などたくさんの感想が寄せられました。



米軍王子野戦病院時代



現在の中央公園文化センター



米軍により白く塗られる中央公園文化センター

※「中央公園文化センター」の歴史が掲載されている資料 ※

『北区史〈資料編〉』: 3-0001513561 『北区立中央公園文化センター略史』: 3-0001958381 (館内のみ)
『写真で語り継ぐ平和の願い』: 3-0001438987 『東京都北区立郷土資料館調査報告第 1 号』: 3-0001450854
『第 22 回特別展 東京第一陸軍造兵廠の軌跡』: 3-0001446066 (『書名』: 書誌番号)



北区の部屋だより 第150号



2022年2月



刊行物登録番号2-2-107

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033 北区十条台1-2-5 ☎03-5993-1125 令和4年2月発行

北区
こぼれ話
第150回

梅の名所でもあった北区域の村々 西ヶ原村梅屋敷

まだまだ寒い日が続きますが暦は2月、そろそろ春の訪れを感じる頃ではないでしょうか。春を告げる花といえば梅。北区では花見の名所飛鳥山があることから桜の方が断然有名になっていますが、江戸時代には梅でも多くの行楽客を集めていたのをご存知でしょうか。

弘化3年（1846）に成稿された『江戸風俗総まくり』という江戸の世情や風俗を記した本によると、かつては梅見というと亀戸梅屋敷（現在の江東区亀戸）の臥龍梅が有名でしたが、文化年間（1804～18）には菊塙の新梅屋敷（現在の向島百花園、墨田区東向島）が人気を集めたといいます。そして、その後は四ツ谷をはじめ梅屋敷と呼ばれる場所が増えていき、天保年間（1830～44）には西ヶ原村でも多くの梅が植えられていたことを記しています。



梅公園の梅林

（赤羽台2丁目1、2022年1月24日撮影）

また、天保年間から嘉永年間（1848～54）の風聞を収録した『事々録』という随筆には、天保15年（1844）2月初旬の記事として、梅数株が植えられた西ヶ原村の梅屋敷を載せ、臥龍、菊塙にも劣らぬ景観であり、ここ二・三年のうちに人々の「遊び所」となったことを記しています。

このほかにも『武江年表』には、天保年間の記事として田端村（史料は田畑村）には、紅白色を交えた数百株の梅が咲き誇る梅園があり、「毎春遊観多し」と大勢の行楽客で賑わっていたことを記しています。このように19世紀の中頃、田端から西ヶ原にかけて滝野川地域一帯は梅見の名所として広く江戸の人々に知られていたことがわかります。

現在、滝野川地域で梅といえば旧古河庭園になるのかも知れませんが、赤羽台2丁目ヌーヴェル赤羽の敷地内に梅公園という場所があるのをご存知でしょうか。今年は、街を散策しつつ梅見スポットを探してみるのも一興かと思います。

【地域資料専門員 保垣孝幸】

*ここで紹介した『江戸風俗総まくり』、『事々録』、『武江年表』は全て『北区史資料編近世1』（東京都北区、1992年）に収録されています。

（書誌番号：3-0001481560）

北区の部屋 今月の展示



- ・展示期間：1月28日（金）～2月23日（水）
- ・展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

北区には、かつて様々な地域新聞社があり、そして消えていきました。北区の代表的新聞として、常に地域ジャーナリズム界をリードし、令和2年（2020）10月まで最も長く発行され続けたのが『北区新聞』でした。その発行元の北区新聞社には、さまざまな写真が残されていました。生活環境を守ろうとする住民たちの闘い。人々がカメラを向けない街角の風景。昭和を代表する国家的イベントの様子。それらは、まさに北区の昭和史を物語るものばかりです。今回は、それらの一部を展示します。ぜひご覧ください。



新幹線通過反対運動の
団結小屋監視塔

公開歴史講座 のご案内



「御府内」^{ごふない} 所在寺社の所領配置と豊島郡 一近世北区域のもう一つの特徴一

北区域を含む豊島郡は他郡に比べ突出して寺社の所領が多く配置された郡域でした。これを実態的に確認するとともに、その影響について専門家がわかりやすく解説します。

日時：令和4年3月12日（土）14時～16時
場所：北区立中央図書館3階ホール
講師：保垣地域資料専門員
対象：区内在住、在勤、在学で中学生以上
定員：20名（抽選）
締切：2月22日（火）必着

※新型コロナウイルスの感染状況によっては開催中止となる場合があります。

申込方法：往復はがきの往信用裏面に講演名、郵便番号、住所（在勤・在学地）、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、返信用表面に申込者の住所氏名を記入し、下記申込先まで。※視覚障害のある方は電話申込可。聴覚障害のある方はFAX申込可。手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。

〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館図書係 ☎03-5993-1125 FAX03-5993-1044

「親子で探検！中央図書館ナイトツアー」 開催しました。



・開催日：1月9日（日） ・企画 運営：北区図書館活動区民の会
毎年大人気の小学生向けワークショップ「中央図書館ナイトツアー」今年も夜の図書館の探検に出発しました。中央図書館の謎に迫るため、いくつかのチェックポイントを回りました。館内に残された古い柱（ラチス柱）について説明を聞き、暗い館内に突如現れる「白衣の案内人」からは、建物模型を使い図書館の歴史について学びました。図書館の赤レンガに残された刻印を探し、模型を使ってそのレンガの積み方も体験しました。参加者からは、「図書館の歴史だけでなく、普段見られない、裏方の仕事についても知ることができよかった」「体験は記憶に残る」「スタッフの熱意が伝わった」という、うれしい感想をいただきました。



ラチス柱



中央図書館の前身の模型